

目利きが選ぶ 3冊

経営学者 中沢 孝夫

働き方改革の世界史

濱口桂一郎・海老原嗣生 著

(おぐま新書・840円)



ルールめぐる揺れ動く

英国の初期の労組のメンバーは、賃金や解雇を巡り、企業と取引が可能な熟練工(エリート)配置転換、あるいはレオとどいった。現代は、労働力はコ恵まれている大企業が公共部門のメンバーが労組の中心だ。本書は、労働運動の歴史を、関係書物を読み解くことによっで迎っているが、その中身は、時代によって勤労者の働き方

どその意味、役割のルール作成をめぐって大きく揺れている。揺れの中心は、主に働かざる経営(者)との、賃金や福利、配置転換、あるいはレオとどいった。現代は、労働力はコ恵まれている大企業が公共部門のメンバーが労組の中心だ。本書は、労働運動の歴史を、関係書物を読み解くことによっで迎っているが、その中身は、時代によって勤労者の働き方

★★★★★ 必読の一冊。